

### 3.議事

#### (2)令和5年度丸亀市社会教育委員の会における協議のテーマ

「学習成果を社会で活用することを見据えた学びのあり方について」のまとめについて

《経緯》

令和5年度第2回丸亀市社会教育委員の会(R5.10.30)

#### ○議事

- ・令和5、6年度社会教育委員の会における協議テーマ、スケジュールについて

令和5年度及び6年度の協議テーマを「学習成果を社会で活用することを見据えた学びのあり方について」と設定。

#### \* 協議テーマ設定の背景、趣旨

- ①生涯学習センターの閉館に対応するため、講座の整理が必要
- ②学習成果を生かして、社会や地域で実践することまでを想定した講座や仕組みが必要
- ③リカレント教育の推進が必要

#### \* 協議内容予定

- ①それぞれの立場で社会活動にかかわっている委員の経験に基づき、学習成果を社会で活用することの意義や、本誌の現状と課題について協議、整理
- ②本市において必要な講座の内容と仕組みについて協議
- ③リカレント教育の推進について協議
- ④協議録を取りまとめ

#### \* 意見

職業的なリカレント教育は専門的な分野になるので市民学級で取り組めるのか  
市民学級の講座の一部にリカレント教育やリスキリングの要素を取り入れてもいい  
資格系や地域の課題に対して解決していく人材の養成の講座  
地域の課題(障がい者や外国人)や講座情報等の収集も必要  
大学との協力を得た専門的な講座  
インターネットで受講できる講座  
協議したことを生涯学習推進計画に結び付けていく必要性

令和5年度第3回丸亀市社会教育委員の会(R5.12.25)

○議事

- ・協議テーマ「学習成果を社会で活用することを見据えた学びのあり方」について  
「社会」とは「コミュニティ」を主に想定していること、コミュニティ組織での人材に関する課題の解決につながる学びについてとして論点を提示。また、札幌市と静岡市の取り組みについて事例を紹介。

＊意見

学校(PTA)とコミュニティとのつながりはあるが、コミュニティは高齢化や担い手不足  
自治会加入率は約40%。未加入者との関わり方を考え、コミュニティの関係人口を増やす  
小中学校や大学等と連携し地域を学ぶ講座をコミュニティで行う  
担当課だけでなく、庁内の横のつながりや民間との協力が必要  
コミュニティの運営に携わっている方の意見を聞く

令和5年度第4回丸亀市社会教育委員の会(R6.3.18)

○議事

- ・協議テーマ「学習成果を社会で活用することを見据えた学びのあり方」について  
第2回、第3回の協議内容から、「コミュニティなどの地域づくりの現状と課題」をまとめ、コミュニティセンター所長の意見等を聴取。これまでの意見等を論点に沿って「コミュニティなどの地域づくりの現状と課題に対する学びのあり方」を作成。

＊意見

コミュニティ組織やその活動により、若い世代である現役世代および子どもたちが関わるためのしかけが必要  
防災や歴史についてなど、学びを通してまち歩きを行い、コミュニティに集まる人を増やす  
小学生からコミュニティに関わって保護者を巻き込んだ取り組みが必要  
コミュニティセンターが魅力ある場所になるよう取組む  
地域で活躍している人材の活用やNPOや企業の協力を得る  
  
コミュニティセンターについては、人材不足や職員の業務過多、財源不足など(人件費やボランティアに対する謝金、謝礼)現状の課題があることを認識する必要性がある

地域づくりの課題に対してどのような学びが必要か、また、学んだ後どういったことに  
つながるのかを明確にしていくことが必要。

**\* 今後の方向性について**

令和 5 年度の協議により、第 5 次丸亀市生涯学習推進計画や市民学級などの生涯  
学習事業の基礎となる意見をいただいた。今後は計画改定に向けた具体的施策や成  
果指標の再検討について協議いただきたい。